

1 ハマフエフキ種苗生産技術研究

多和田 真 周、藤 本 裕

本研究の詳細は昭和53年度指定調査研究報告書（昭和54年3月）、種苗生産部門において報告したのでここでは概要に止める。

はじめに

ハマフエフキ (Lethrinus choerorhynchus) はフエフキダイ科に属し、沖縄県沿岸の岩礁域や砂地に生息、主として一本釣や底延縄で漁獲されている。沖縄県における昭和46年~50年のタイ類の漁獲量は年間909~1,431tとなっており、その中でハマフエフキは2~3割(181~429t)を占め、沿岸における魚種別漁獲量では上位にランクされる。また市場では高価格で取り引きが行なわれているため、沖縄県における沿岸漁業の重要魚種の一つとされている。

ハマフエフキ種苗生産に関する研究は昭和51年度から県単事業として開始されたが、初期飼育の段階で種々問題点があり安定した飼育技術の確立までには至っていない。今年度は天然親魚の採捕養成、自然産卵による採卵、ふ化および仔稚魚飼育に関する試験を行なったのでここに報告する。

I 要 約

1. 天然親魚の捕獲方法は捕獲後のスレやキズの快復状態、歩留りの点で釣（底延縄）による採捕が最も望ましい。
2. 産卵期中途の4月15日に親魚が全滅した。斃死魚の腹腔内には例外なく孢子虫類の寄生がみられ、これが親魚の斃死について影響をおよぼしたものとみられる。
3. ハマフエフキは水温が22.0℃以上になると産卵が行なわれる。
4. 産卵は2月8日から始まり、親魚の斃死事故がおこる4日前の4月11日まで確認した。その間の総採卵量は3,060,000粒（浮上卵数2,109,000粒）浮上卵率平均は68.9%であった。産卵時刻は日没後の19時から21時の間と考えられた。
5. ふ化率は平均82.6%であった。ふ化に要する時間は水温19.5~21.5℃で37~41時間であった。また、正常にふ化するためには比重(σ_{15})22.19以上は必要であることが分った。
6. 初期餌料としてワムシとカキsp.（石垣島宮良湾産）受精卵を投与して、飼育試験を行なったところ、カキsp.区の方はふ化後15日目までに20%の生残率であった。カキsp.区はふ化後35日目まで継続飼育を行ない、仔魚の大きさと摂餌量（消化管内容物）について餌料種類別に明らかにした。
7. カキsp.受精卵投与期間中の飼育水にグリーンを添加する必要は特に認められなかった。
8. 0.5t および1t パンライト水槽を使用して、19,200~27,000尾₁の收容密度で35日間飼育した結果、488~890尾_{0.5t}、1,651~3,502尾_{1t}の生産尾数となり歩留りは5.0~11.3%であった。ふ化後4~8日目の間に44~74%の大量斃死が生じた。

9. 稚魚期（ふ化後35～60日目）の飼育は短期間でもチグリオパスを併用投餌した方が歩留り、成長とも良い結果であった。

II 残された問題点

1. 親魚養成中の斃死事故防止（斃死の原因究明と寄生虫対策）
2. ふ化後5～8日目における第一減耗期の歩留り向上の検討
3. ふ化後30日目前後における仔魚の沈下現象の原因究明